

全国公立学校教頭会研究大会参加報告

第3分科会では、「豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして」を主題に、全国各地から247名の出席者のもと2つの提言がなされ、この提言のもと8名ずつ31グループに分かれての討議や情報交換・発表が行われ、指導助言をいただいた。

◇ 提言1 地域文化の掘り起こしから協働学習の場へ「学校文化の創造」

～「水」にこだわった地域文化（人）を学校文化（人）とするためのマネジメント～

提言者 大阪府東大阪市教頭会 東大阪市立孔舎衙東小学校 安藤 俊哉 先生

「水」をテーマに地域文化にスポットをあてた取り組みにおいて、教頭がどのように関わったかの実践事例が報告された。教頭は『学校がスポットをあてる→地域が動く→親が動く→子どもが子どもに教えはじめる』というマネジメントサイクルを意識し、学校と保護者・地域住民との密接な関係の構築にはじまり、地域住民との協働学習の場としての学校づくりをめざしているとのことであった。

提言を受け、「地域文化を学校文化に取り入れるための教頭の関わりのあり方」というテーマでグループ討議が行われ、5グループの発表がされた。

指導助言では、西野真由美先生（国立教育政策研究所）より、

- ・教頭は自分の個性を生かし地域等との関わりを持っていくことがよいこと、
- ・学力向上において、キーワードである学習意欲・学習習慣づくりには、各種調査結果から「人との関わり、何かとの関わり・出会い」がポイントであり、少し遠回りだが、学校に文化を取り入れることが大事であるとの助言をいただいた。

◇ 提言2 学校・家庭・地域社会との連携による子どもの育成

～地域社会・家庭との連携・協働における教頭の在り方～

提言者 岡山県岡山市公立小・中学校教頭会 岡山市立横井小学校 萩野 克己 先生

岡山市の教育施策（「岡山っ子育成条例」…家庭・学校園・地域社会・事業所の行動指針が策定され、地域社会や家庭との連携が行動計画としてあげられている）を具現化するために、地域社会、家庭との連携においてコーディネーターとして教頭が行ってきた3年次にわたる実践事例が報告された。研究を通し、教頭として学校と家庭・地域社会が互いに利点が生まれるよう、また、団体に主体性を持って活動していただくようコーディネートすることの必要性が分かったとのことであった。

提言を受け、「地域・家庭との連携・協働における教頭としての効果的なコーディネートの在り方」というテーマでグループ討議が行われ、5グループの発表がされた。

指導助言で、余郷 和敏先生（東京都中央区立明石小学校長）より、

- ・教頭は、コーディネーターの仕事をさせるようにうまくマネジメントすること、
- ・教頭の仕事として、○人を繋ぐ ○施設を活かす ○地域の自然や文化を活かすの3つをあげ特に、人を繋ぐでは、■校長と教職員を繋ぐ ■教職員と子どもを繋ぐ ■家庭と教職員を繋ぐ ■地域と学校を繋ぐことが大切であるとの助言をいただいた。

豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざし、学校・家庭・地域の連携の在り方と副校長・教頭の関わりを学ぶことのできた貴重な研究会であった。 (学校運営研究部 奥山 邦次)